

# 寶林精舎

《題字・森神紫陽》

## 平成24年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	地区名
廣瀬 芳見	父	秀雄	平成23年 8月16日	79歳	赤木 立箱
曾根田 チドリ	母	小野ケサ子	8月20日	92歳	仁田原 上の地
竹中 道治	父	相馬	8月30日	98歳	上直見 竹の下
佐竹 伸幸	母	キヨ子	9月 8日	83歳	上直見 竹の下
安藤 延男	母	ワキエ	9月14日	99歳	福岡市 早良区
安藤 公喜	母	克子	9月24日	84歳	福岡市 東区
甲斐 政信	母	笠木カツ子	9月28日	84歳	臼杵市 千代田区
竹下 裕	父	正	10月12日	82歳	上直見 竹の下
御手洗 正人	父	沢吉	10月26日	83歳	仁田原 椈ヶ原
鳴海 勇	母	ヤク	11月19日	102歳	蒲江 尾浦
近藤 正視	養父	松下 吉郎	12月11日	90歳	仁田原 上の地
安藤 康正	父	加	12月11日	86歳	上直見 神の原
御手洗 正人	母	ルイ子	12月18日	81歳	仁田原 椈ヶ原
甲斐 興宣	母	ツマ子	平成24年 1月 2日	84歳	赤木 栗林
大久保 保美	夫	富信	1月18日	69歳	仁田原 大鶴
鳴海 龍	母	タ子コ	3月12日	96歳	蒲江 尾浦
岩崎 政徳	父	徳孝	3月21日	78歳	赤木 堂師
宮脇 敬	父	正美	3月30日	82歳	仁田原 岸の上
志賀 健一郎	母	澄子	4月 4日	78歳	仁田原 柚の原
矢野 雅章	父	哲也	4月 5日	75歳	横浜市 瀬谷区
武田 耕二	父	逸雄	4月21日	81歳	豊後大野市 三重町
小野 勇一	母	ツヤ子	5月 9日	83歳	仁田原 細川内
岡田 伊勢夫	妻	トモエ	6月10日	89歳	仁田原 柚の原
武田 博	父	守	6月16日	87歳	赤木 栗林
簀戸 サヨ子	夫	展	6月16日	70歳	仁田原 岸の上
柳 井 みはる	父	昇	6月25日	94歳	赤木 新中

(7月24日現在)

## 第56号

### 正定寺花園会広報

平成24年夏発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 市内：325戸 市外：74戸

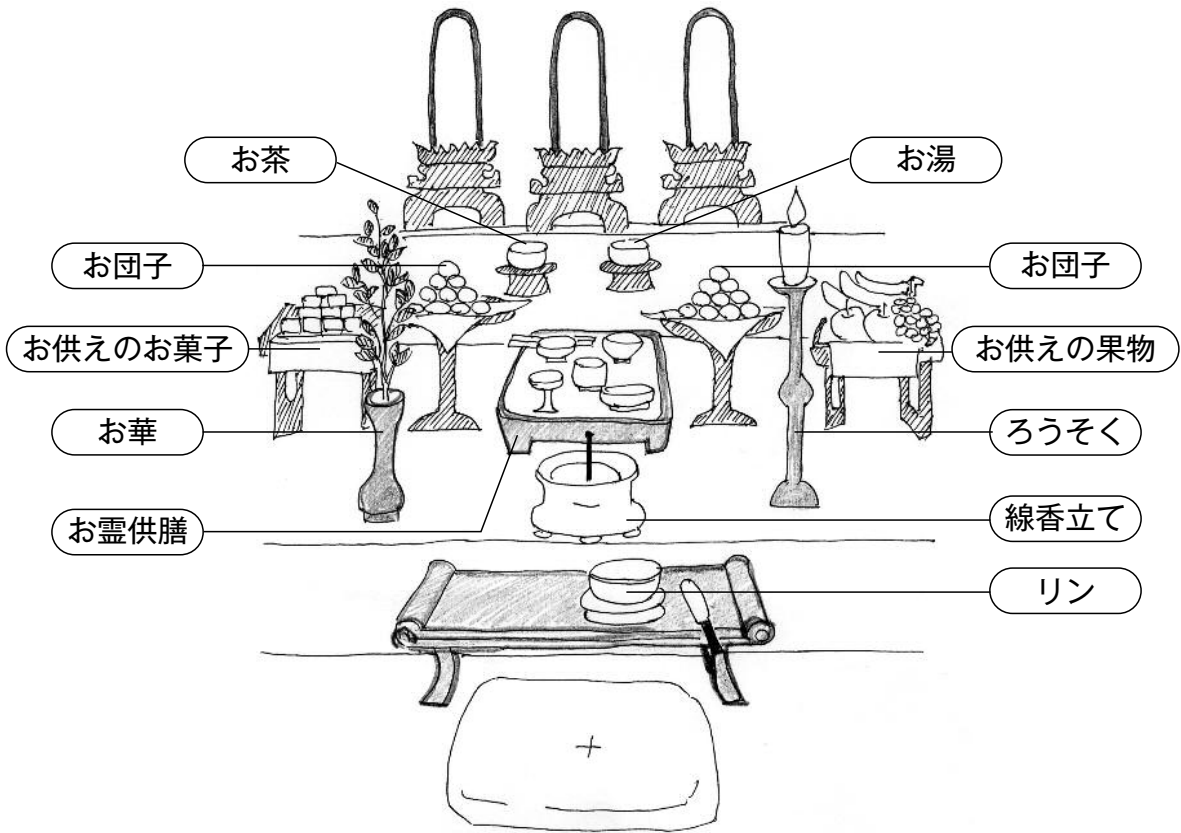
〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail [shoji@saiki.tv](mailto:shoji@saiki.tv)

住職 小原 寿山 副住職 小原 南陽

# 基本的な飾り付け



- 御先祖位牌を中央奥に祀り、右側から古い御先祖さまから祀ります。
- 新亡家では、新亡位牌を中央に祀ります。この時ばかりは御先祖佛壇は閉じておきます。
- お華は、シキビでも色花でもホオズキでも結構です。



## 「広い海へ出てみよう」

東京海洋大客員助教 教授・さかなクン

中1のとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなつたときがありました。いばつていた先輩が3年になつたとたん、無視されたこともありました。突然のことで、わけはわかりませんでした。でも、さかなの世界と似ていました。たとえばメジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽と一緒にいたら、1匹を仲間はずれにして攻撃し始めたのです。けがしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。すると残つたメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新しいいじめっ子があらわれます。広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所につき、同じエサを食べる、同じ種類同士です。中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ほくは、いじめの子たちに「なんで？」ときけません。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほつとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれない。ほくは変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。大切な友だちがでる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んだりしてても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのにもつたないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。

(朝日新聞2006年12月2日掲載)

# お盆のあれこれ

8月13日

むかえぼん  
迎え盆  
くさきりぼん  
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。  
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。  
盆の間は、大切なご先祖さまをお迎えするので牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんのエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

むかえび  
迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。  
日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。  
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違つて14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

あらいおけ  
洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。  
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有ります。翌朝、「洗い桶の水が濁っている」と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ごえん  
ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。  
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。  
お嫁さんに出すときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。  
「うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました」とは、ここから出た言葉なのです。  
生涯をその家で過ごし、人生の臨終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

きゅうりのうま  
胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足をつけて馬に見立て、お墓にお供えます。これを「胡瓜の馬」と言います。  
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。  
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれると言われるので、縁側の戸を開めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

こうじき  
香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。  
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べものなのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。  
灯したロウソクが揺らぐと「ホラ！帰って来られた」と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん  
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。  
日本でのお盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初とされています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすはきぼん  
煤掃き盆

8月5日を「すすはき盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん  
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。  
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。  
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(睡魔)」を追い払い清める行事です。  
水に流すことで願い事を叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。  
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃苔」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん  
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。  
お盆のお仏壇やお墓にお供えする花を準備する日の事です。  
花は「檜・櫛・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供えする花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛つて私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が十分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えすると長持ちするとされています。

水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物を与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

8月16日

送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、束ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

# 知ってましたか?



盂蘭盆

8月14日・15日

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊り」にされているような苦しみ(倒懸苦)と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言ひ、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に設けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えしていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありますか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋・瓜・洗米など火を加えずには食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にするると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気を洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渴きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(閻伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯笼提灯に見立てて「灯笼菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

# 平成24年 新春大般若会



始まる前に宇目の長徳寺和尚さんがお話を致します

平成24年1月20日（金）午前11時から年中行事の大般若会が行われました。

200名の参拝者が賑やかに無事行事を終えることが出来ました。

天気予報では雨でしたが、さほど雨も降らず餅投げも外で行うことが出来ました。

世話人さんや女性部の方々は事前の準備からはじまり、当日は80名の方々のお手伝いをいただきました。

新しい台所では「立派な台所が出来た」と「うどん」や蒲江尾浦から奉納された「ぶり」が手際よく本堂の参拝者に配られていました。

今年のくじ引きでは、1等の洗濯機から3等のテレビまでが残りました。

当日の写真等はHPにもたくさん載っています。遠くに住む息子さんやお孫さんにも正定寺のホームページをお知らせください。



導師



大鐘がなりいよいよ大般若の始まり



本堂に集う檀家の方々



大般若の転読



出頭頂いた和尚さん



参拝者の車が仁田原公民館へ



大般若の転読



本山管長さまからの百歳のお祝いを  
息子さんが代参



▲新成人のお祝いを代参▶



▲お接待



お接待



◀新しい板の間で  
おにぎりができ  
あがります



新しくなった板の間・部屋も明るくなりました



▲新しい台所（典座）▲



▲加勢の方々の二番座▲



総代役員も総合受付の係に就きます



◀餅投げ▶



## 晋山式の進捗（しんちよく）状況

晋山式の法類会議でよく使う言葉があります。NHKドラマ「坂の上の雲」にも登場した日本連合艦隊参謀の秋山真之が草案の「皇国の興廢此の一戦に在り、各員一層奮励努力せよ」の言葉です。

日本連合艦隊「三笠」の乗組員に言ったこの言葉を晋山式の会議で引き合いに出すことがあります。

晋山式はその寺院が内外寺院に示す檀信徒の信仰心と新命和尚さんへの期待の現れです。

お寺の興廢は、新住職を迎える晋山式と言う一会から始まります。

新命和尚さんは、檀家さんの厚情を覚えて、その覚悟を天下に披瀝（ひれき）します。

そしてこれらの法要や行事を「随喜」と言います。

随喜とは「他人のなす善を見て、喜びの心を生じる」と言う意味です。陰日なたになって、晋山式を盛会裏に導き終えたいと願う方々の善行が人から人へと従って行きます。当然、新命和尚さんもみなさまの随喜に応えるべく精進して正定寺の住持となります。

晋山式まで残すところ百日余りです。

「寺院の興廢此の一会に在り」

### 晋山式募財の振込方法

振込用紙を無くしたり、住所移転等で直接納金を希望する檀信徒の方は下記の振込方法でお願い致します。

※直川在住の方は、これまで通り世話人さんが取り集め致します。

#### ◇ 晋山式振込方法のご案内

募財割当額： 73,000円

納入期間： 平成23年4月から平成24年10月まで。

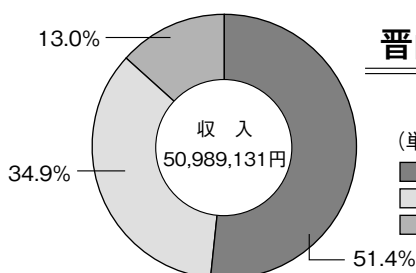
領収書： 入金確認後に正式な領収書を送付いたします。

納入方法： ①ゆうちょ銀行のカードから振り込みする場合（※手数料なし）

〈金融機関〉ゆうちょ銀行 〈金融種類〉当座 〈口座名〉正定寺特別浄財  
 〈カタカナ〉ショウジョウジトクベツジョウザイ  
 〈口座番号〉01990-7-56863

②他の銀行から振り込みする場合（※手数料あり）

〈金融機関〉ゆうちょ銀行 〈金融支店〉一九九店（イチキウキウ）  
 〈店番号〉199 〈金融種類〉2当座預金 〈口座名〉正定寺特別浄財  
 〈カタカナ〉ショウジョウジトクベツジョウザイ  
 〈口座番号〉0056863



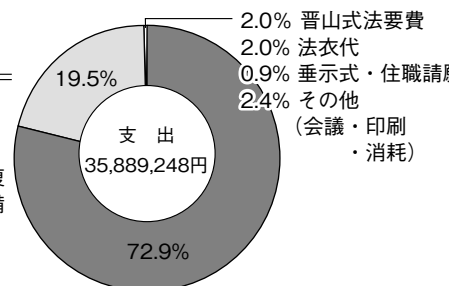
#### 晋山式特別会計の中間状況

(単位名：%)

- 檀信徒負担金
- 特別寄付金
- 山林収入

(単位名：%)

- 屋内修繕修復
- 境内環境整備







# 献茶会と平成24年度世話人総会

平成24年6月23日（土）午後7時30分より位牌堂で献茶会法要が行われ、その後本堂で平成24年度正定寺花園会世話人総会が開かれました。

花園会役員・地区世話人や女性部・青壮年部の役員など37名の内29名が出席して開催されました。出席者が充分に資料の下見が出来て忌憚のないご意見を賜れるようにと10数年前から総会資料は役員へ事前に配付されています。

このような「資料事前配布」や「ホームページ作成」なども檀信徒へ正確な情報の公開を進めるための取り組みです。事前配布のおかげで毎年総会議事は30分程で終わります。

正定寺の行事情報などは、今年で28年目を迎える寺報や27年目になるHPからも得ることが出来ます。又、総会資料はHPでも公開されています。



ご先祖さんへ献茶焼香する役員

## 〈総会出席者〉

氏名	役職	地域
甲斐 照光	花園会役員・総代	江河内
小野 永生	花園会役員・総代	江河内
御手洗晴視	花園会役員・総代	細川内
安藤 廣美	花園会役員・総代	久留須
村西 栄二	花園会事務局・会計	神栗
戸高 直人	晋山式事務局・会計	内水
戸高 浅生	花園会地区世話人	内水
飛田 照子	花園会地区世話人	椀杭
加藤 隆美	花園会地区世話人	岸の上
植田 純市	花園会地区世話人・会計監査	上の地
小野 浩伸	花園会地区世話人	細川内
染矢 豊喜	花園会地区世話人	柚の原
久保田和博	花園会地区世話人	大鶴
安藤 康正	花園会地区世話人	神の原
森下 修	花園会地区世話人	神栗
柳井 律子	花園会地区世話人	市屋敷
野村 浩史	花園会地区世話人	堂師
川野 貴重	花園会地区世話人	野の内
高橋 忠男	花園会地区世話人	立長
広瀬 茂弘	花園会地区世話人	中道
簀戸 功吉	花園会地区世話人	久留須・新中
竹中 裕子	花園会地区世話人・会計監査	竹園
甲斐 龍太	花園会地区世話人	江河内・道越
小田木聖孝	花園会青壮年部部長	細川内
久保田成太	晋山式特別会計監査	佐伯
柳井 百人	晋山式特別会計監査	市屋敷
甲斐久仁子	花園会女性部部長	江河内
川野久美子	花園会女性部副部長	堂師
柳井久美子	花園会女性部事務局・会計	市屋敷



総会前には献茶会のお勤めを致します



世話人総会に臨んで小野総代の挨拶



世話人総会での様子



# 献茶会と平成24年度花園会女性部総会

平成24年の花園会女性部総会は6月24日（日）に献茶会に併せて行われました。

午後2時から観音堂で献茶会が行われ焼香を終えた33名の会員は本堂に移動して花園会女性部総会が行われました。総会では「平成23年度事業・会計報告」や「平成24年度事業計画・予算」それに役員の改選が行われました。



総会の様子



議事進行の  
甲斐部長



議題を真剣に聞き入る女性部



平成23年度諸事業を事務局から報告

## 新役員



新事務局・会計の  
広瀬芳子さん



新副部長の  
安藤いつ子さん



新副部長の  
戸高松栄さん



挨拶する新部長の  
大竹琴美さん



総会の後は30年前の晋山式のビデオを見ました。懐かしい方々がたくさん映っていました。



プロジェクトに映る30年前の女性部は当然ですが・・・若い！



新命だった頃の私が映るとなぜか盛り上がった

## 晋山式のスタッフ

晋山式には近隣の和尚さまから遠地の和尚さままで約80名の方々がおいでになります。晋山式には「稚児行列」・「晋山行列」なども行われ、大きな法要となります。

その一大行事を無事に終えるためには、沢山の方々のご加勢（お世話）が必要になります。

お寺のお世話をしてくださる方々を昔は「檀頭」・「世話方衆」・「力者」・「火番」などと呼んでいました。

この度の第24世晋山式のお世話は「花園会役員・世話人・旧役員」それに「花園会女性部役員・旧役員」の方々をお願い申し上げます。

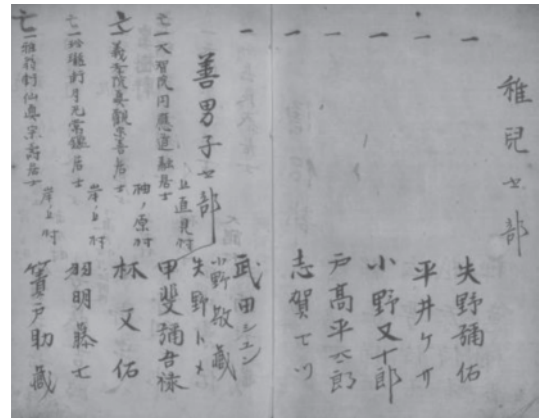
その他に、近隣の25名の和尚さんにも受け入れ側のご加担をお願いすることになります。

お世話方のみなさまには、行事への参加はもちろんです。来賓の和尚さんや参拝する檀家さんへのお接待やご案内もお願いすることになります。

お盆を過ぎると本格的に会議や打ち合わせが行われ、よろしくお願ひ申し上げます。

戸高 浅生	内 水	野村 浩史	堂 師
戸高 直人	内 水	川野久美子	堂 師
戸高 恵理	内 水	川野 貴重	野の内
戸高 松栄	内 水	高橋 忠男	立 長
小野 宣子	内 水	柳井 幾子	立 長
飛田 照子	椀 杭	安藤 博光	中 道
加藤 隆美	岸の上	柳井 道則	中 道
植田 純市	上の地	広瀬 茂弘	中 道
小野 明美	上の地	安藤リヨ子	中 道
小野 美枝	上の地	広瀬 芳子	中 道
御手洗晴視	細川内	安藤いつ子	中 道
小田木聖孝	細川内	山内 文男	吹 原
小野 浩伸	細川内	安藤 廣美	久留須
柳井 孝義	細川内	簀戸 功吉	久留須
御手洗ヨネ子	細川内	矢野 侃可	久留須
染矢 豊喜	柚の原	安藤 佳代	久留須
林美 喜枝	柚の原	竹中 裕子	竹 園
小野 力	黒 岩	竹下 好子	竹 園
大竹 正男	羽 木	甲斐 照光	江河内
久保田和博	大 鶴	小野 永生	江河内
久保田成太	大 鶴	甲斐 龍太	江河内
久保田キヨエ	大 鶴	甲斐久仁子	江河内
大竹 琴美	大 鶴	小野 公子	江河内
安藤 康正	神の原	甲斐 俊子	江河内
森下 修	神 栗	河野 豊美	江河内
村西 栄二	神 栗	小野砂代子	江河内
武田 淳子	神 栗	吉内久美子	江河内
平井 充子	神 栗	吉内 恵子	江河内
柳井 百人	市屋敷	仲宮 哲男	佐 伯
柳井 律子	市屋敷	鳴海 由久	尾 浦
柳井 政子	市屋敷		
柳井久美子	市屋敷		

敬称略順不同



写真は明治10年の記録帳です。このページの「稚児之部」には矢野彌佑・平井ケイ・小野又十郎・戸高平太郎・志賀セツ・武田シユン・小野敬蔵の方々のお名前が見えます。又、大人男性の部（授戒徒兼世話方）には、矢野トメ・甲斐彌吾・林又佑・羽明藤七・簀戸助蔵の氏名が記されています。この方々を「檀那（檀家・仏教徒）」といいます。その檀家が一つになって支える寺院を「菩提寺」と言います。

幕府や朝廷が建立した寺院とは違って、私たち万人で建立するからこそご先祖への歴史や誇りを持った信仰が息づきます。この写真の記録帳にはみなさまのご先祖さまが記されています。

古い物では、今から399年前の記録帳も正定寺にあります。

\*\*\*花園会女性部\*\*\*

氏名	役職	地域
飛田キヌエ		杭 杭
飛田 礼子		杭 杭
戸高 茂子	地区リーダー	杭 杭
御手洗好子		杭 杭
桜井 久子		岸の上
簗戸サヨ子	地区リーダー	岸の上
渡辺 昭子		久留須
飛田 茂子		久留須
矢野 侃可	地区リーダー	久留須
小野シマ子		久留須
簗戸美代子		久留須
安藤 佳代		久留須
吉内 喜代	女性部名誉顧問（初代部長）	江河内
御手洗シズエ		江河内
河野 豊美		江河内
小野 公子		江河内
甲斐久仁子	女性部顧問・地区リーダー	江河内
甲斐 俊子		江河内
吉内 恵子		江河内
小野砂代子		江河内
吉内久美子		江河内
小田木布子		細川内
御手洗ヨネ子	地区リーダー	細川内
柳井登志子		市屋敷
柳井 政子		市屋敷
柳井久美子	地区リーダー	市屋敷
志賀トシエ		上の地
石川 栄子		上の地
植田キクエ		上の地
小野 明美		上の地
小野 美枝	地区リーダー	上の地
鴨尾エイ子	地区リーダー	神の原
平井カズエ		神 栗
平井 文江		神 栗
武田 淳子	地区リーダー	神 栗
星野 延子		川又・向船場
竹尾トモ子	地区リーダー	川又・向船場
久保田 操		大 鶴
三浦 キミ		大 鶴
久保田美津江		大 鶴
戸高小恵子		大 鶴
久保田キヨエ	地区リーダー	大 鶴
久保田綾子		大 鶴
大竹 琴美	女性部部長	大 鶴
大久保保美		大 鶴
竹元タマエ		大 竹
竹中サツキ		竹 園
竹下 好子		竹 園
竹中 和枝	地区リーダー	竹 園
安藤アヤ子		中 道
安藤リヨ子	地区リーダー	中 道
広瀬 芳子	女性部会計・事務局	中 道
安藤いつ子	女性部副部長	中 道
山元 都		内 水
小野 宣子	地区リーダー	内 水
戸高 松栄	女性部副部長	内 水
小野由起江		内 水
戸高タカヨ		内 水
戸高 恵理		内 水
染矢 信子	地区リーダー	野の内
橋迫香代子		柚の原
林 壽子		柚の原
山下富美江		柚の原
岡田千壽子		柚の原
林 美喜枝	女性部監査・地区リーダー	柚の原
五十川キミエ	地区リーダー	横 川
谷崎 百代		中津留
川野久美子	地区リーダー	堂 師
柳井 幾子	女性部監査・地区リーダー	立 長
小原みどり	寺庭	上の地

# 献茶会の由来

献茶会は100年ほど前から行われている法要で、近隣の寺院では珍しい「新茶（煎り茶）」を祖先さまに奉納する法要です。30年ほど前は、どの家も茶摘みをして自前の窯で茶を煎っていました。今では珍しい光景となりましたが、このお茶の製造を伝えたのが正定寺第20世の鐵山和尚です。

明治以前は、山茶を摘んで蒸したり炒めたりして

お年寄りの中にはお茶の作り方を「お寺の茶」

ていました。なかなか保つてもうまくいかず製品としても充分ではありませんでした。明治16年に正定寺に晋山した鐵山和尚は、遠くは静岡まで出かけて「煎茶」製造を学び普及に努めました。今、直川で行われている製造方法は、この鐵山和尚が伝えたものです。

人が亡くなつて一本の花を供えるのはお釈迦様の

京都で開かれた第4回内国勸業博覧会に出品した煎茶

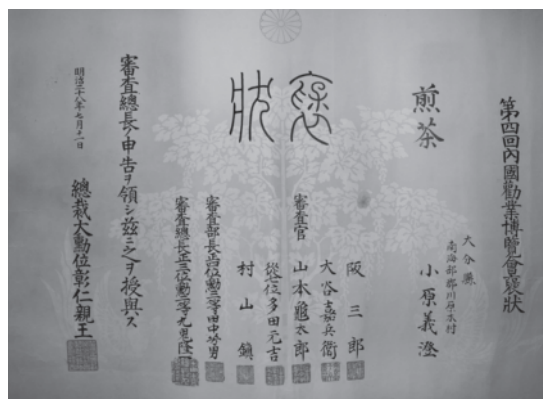
という方もいます。明治中期以降は、自然生えしていた茶の木を畑の周辺や身近な場所に植林してお茶を摘むようになりまし。鐵山和尚が遷化（亡くなる）した明治45年以降は、その功績や遺徳を偲んで「茶の木」を枕経の一本花とする風習が生まれました。今でも枕経に飾る「一本の花」を四季を問わず青々とした「茶の木」にするのは正定寺檀家だけの伝統です。

写真は明治28年、京都で開かれた第4回内国勸業博覧会に出品した煎茶

の「涅槃縁起」の故事に習ったもので、他寺院や他宗では一般的には菊・しきび（シキミ）・色花が多く見られます。

献茶会の新茶を集めて頂く世話人さまや奉納する檀家さんにとっては大変なご精進と思いますが、風習や先祖への報恩を想いながら子孫へ伝えて行きたい法要の一つです。

がその栄を受けた褒状です。直川の茶葉で作られた煎茶が全国で認められた証です。



鐵山義澄和尚の煎茶褒賞状

## 檀信徒のみなさまへ

### 現在までの晋山式特別寄付

地区	特別寄進(施品)	金額	受領日
市屋敷	大絡子	400,000	平成22年12月22日
久留須・新中	拝敷	50,000	平成23年 8月 3日
黒岩	絡子	100,000	平成23年10月 6日
尾浦	香合	30,000	平成23年12月27日
間	数珠	100,000	平成24年 1月 1日
市屋敷	大傘	80,000	平成24年 1月 3日
袖の原	紫大衣	230,000	平成24年 1月11日
黒岩	絡子	100,000	平成24年 1月14日
江河内・道越	絡子	100,000	平成24年 1月18日
神栗	法衣	10,000	平成24年 1月21日
上の地	数珠	50,000	平成24年 1月24日
大鶴	紫大衣	100,000	平成24年 1月25日
市屋敷	数珠	110,000	平成24年 1月25日
市屋敷	数珠	110,000	平成24年 1月25日
上の地	七條袈裟	230,000	平成24年 2月24日
上の地	法衣	50,000	平成24年 3月12日
神の原	大絡子	200,000	平成24年 4月 4日
神の原	紫大衣	300,000	平成24年 4月20日
江河内・道越	七條袈裟	230,000	平成24年 5月21日
尾浦	略衣	170,000	平成24年 5月21日
尾浦	法衣	50,000	平成24年 5月21日
江河内・道越	金襴七條袈裟	1,000,000	平成24年 5月22日
尾浦	七條袈裟	230,000	平成24年 5月22日
尾浦	法衣	70,000	平成24年 5月22日
上の地	法衣	500,000	平成24年 5月30日
尾浦	頭陀袋	20,000	平成24年 5月30日
神栗	黒大衣	200,000	平成24年 6月 1日
上の地	数珠	50,000	平成24年 6月 9日
上の地	大傘	80,000	平成24年 6月 9日
椀杭	白衣	60,000	平成24年 6月10日
椀杭	法衣	100,000	平成24年 6月12日
吹原	出頭沓	150,000	平成24年 6月16日
上の地	法衣	73,000	平成24年 6月17日
中道	白衣	60,000	平成24年 6月17日
久留須・新中	黒大衣	240,000	平成24年 6月17日
中道	白衣	120,000	平成24年 6月21日
細川内	七條袈裟	500,000	平成24年 6月25日
堂師	七條袈裟	110,000	平成24年 6月29日
江河内・道越	七條袈裟	500,000	平成24年 6月30日
江河内・道越	法衣	300,000	平成24年 6月30日
岸の上	法衣	80,000	平成24年 7月 4日
袖の原	法衣	150,000	平成24年 7月 4日
細川内	七條袈裟	500,000	平成24年 7月 5日
その他	法衣	31,080	平成24年 7月 9日
袖の原	法衣	100,000	平成24年 7月10日
中道	法衣	50,000	平成24年 7月13日
内水	法衣	200,000	平成24年 7月13日
内水	法衣	100,000	平成24年 7月22日
大鶴	法衣	100,000	平成24年 7月24日

今秋11月24日（土）11時から行われる正定寺第24世南陽和尚晋山式にはみなさまからご協力頂き法衣準備や法要諸準備など順調に進んでいます。

おかげさまで檀家さんの寄付負担金の一律7万3千円は既に当初予算に達し、今秋までに全ての檀家さんの完納を頂く見込みとなりました。

尚、本年正月より晋山式への吉縁からなる「特別寄付」を順次に受け付けて居ります。

又、5月22日から役員・篤志者・法縁者（過去の特別寄進者）の方々へお伺いして「特別寄付」のお願いも賜っています。

本来は万人にお伺いして乞うべきところですが、時間や寺院法務の都合で限られた方々へのお願いになっています。

檀家さんの中で「私も特別寄付を供養したい」或いは「うちにも声を掛けてくれたらお祝いしたい」との発願の檀家さんが居られましたら総代・役員にお知らせ下さい。

又、ご親戚・隣保の方々でそのような篤志者のお声を聞きになりましたら、是非おすすめ下さい。

吉縁への浄財寄進なので金額の多少にかかわらず勧進申し上げます。

世情大変な時期にもかかわらず快く施品などを寄進して頂きました方や、30年に1度の晋山式に様々な思いで特別寄進・お祝いを頂いたみなさまには心より感謝申し上げます。

賜りました浄財は役員総代のもとで大切に使用させていただきます。

※寄進者は出身地区名で表示しています。特別寄進の中には檀家以外の、分家・信徒・縁者のみなさまから賜った浄財も含まれています。尚、氏名の表記は収支報告などの書類に関わるものだけとさせていただきます。

〈7月24日現在〉

## ～晋山式特別寄付のお願い～

### 特別寄付金の振り込み口座

#### 《ゆうちょ銀行からの送金》

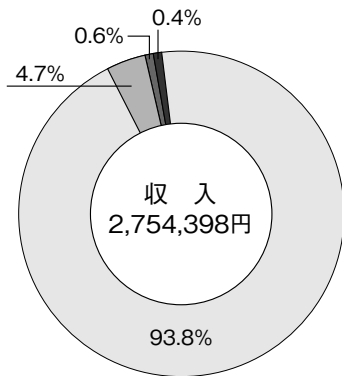
〈記号〉17270 〈番号〉9410861 〈口座名義〉宗教法人正定寺  
 〈フリガナ〉シユウ) ショウジョウジ

#### 《ゆうちょ銀行以外の金融機関からの送金》

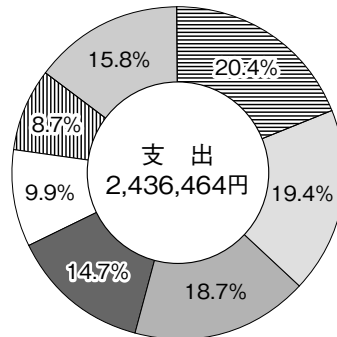
〈店名〉七二八（ナナニハチ） 〈店番〉728 〈預金種目〉普通預金  
 〈口座番号〉0941086 〈口座名義〉宗教法人正定寺  
 〈フリガナ〉シユウ) ショウジョウジ

※「特別寄付のお願い」を予算不足による追加寄付と思われて、不安を抱く檀家さんもあるかと思いますが、一律負担の7万3千円に足しての追加寄付金ではありません。「特別寄付金」はあくまで篤志者による法縁寄進によるものです。この特別寄付金は法衣等への支度金（支払い）に充てられます。特別寄付金によって余剰した当初予算計上の法衣支度金分の用途は、晋山式準備のための境内環境整備・屋内修繕修復・垂示式・住職請願・晋山式法要費・その他等への補正追加予算として計上致します。

### 平成23年度 花園会会計決算

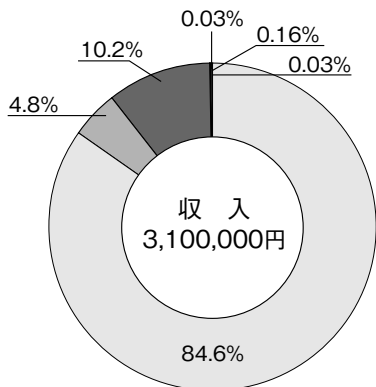


- (単位名：%)
- 護持金
  - 寄付金
  - 繰越金
  - 諸収入

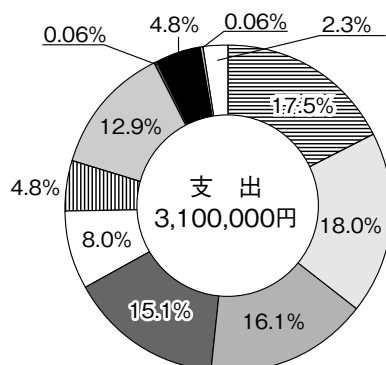


- (単位名：%)
- 宗費
  - 護持費
  - 年中行事費
  - 事務費
  - 教化布教費
  - 諸支出金
  - 公課共済費

### 平成24年度 花園会会計予算



- (単位名：%)
- 護持金
  - 寄付金
  - 祭壇収入
  - 諸収入
  - 繰入金



- (単位名：%)
- 宗費
  - 護持費
  - 年中行事費
  - 事務費
  - 教化布教費
  - 諸支出金
  - 公課共済費
  - 財産管理費
  - 償還金・負担金
  - 祭壇管理費
  - 予備費

### 〈お稚児さんの募集〉

稚児の募集は9月に入りましたら世話人さまを通じてご案内申し上げます。参加年齢は3歳から小学校2・3年生までと思っておりますが、前後の年齢でも稚児衣装は大丈夫です。大勢の役員でみなさまをお待ちしていますので、是非30年に一度の晋山式にご参加下さい。



(参考資料)

## 平成24年 春のお彼岸法要と初午会法要

平成24年3月23日（金）午後1時30分より春のお彼岸法要と初午会法要が位牌堂で行われました。

今年はいよいよの雨で午前中に予定していましたが「第9回正定寺杯グラウンドゴルフ」が中止になりましたが、午後2時から本堂では、『どう活かすわたしのいのち』と題して京都府与謝野町から本山巡教師としてみえられました畠中健



西禅寺の畠中健友和尚さん

友和尚さん（西禅寺住職）のお説教には沢山の方が参拝していました。



おかげさまで本堂が一杯になりました



お説教を聞き入る檀家さん

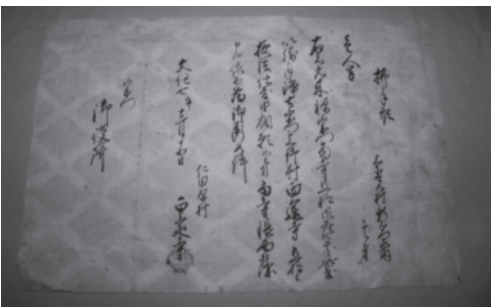
## 襖の下張り

晋山式の付帯工事が行われる庫裡板間の改修工事で、古い襖が2枚現れました。

シロアリ被害の根太（ネダ）や朽ちた古材は廃材となりましたが、リサイクル出来るモノは再利用されます。

捨てるモノの中に「拾いモノ」を発見することもあります。

「襖の下張り」もその一つです。丹念に一枚一

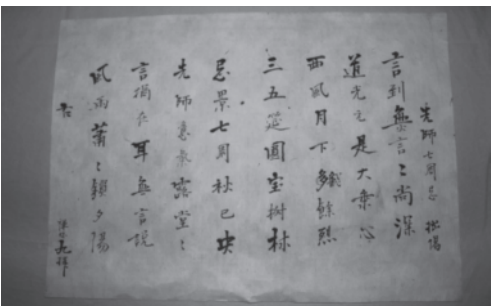


これは「払い手形(文化7年<201年前)>」です。

枚紙を剥いでいくとおもしろいモノを発見しました。



何度も再利用された紙は、上書きを繰り返して習字の練習などにも使われていたようです



これは文化9年秋（199年前）の第15世和尚さんの7回忌法要のものです